

第11回女性起業家大賞・スタートアップ部門 奨励賞

盛岡の「裂き織」と「さんさ踊り」を 障がいのある人の技術がつなぐ

株式会社幸呼来 Japan 代表取締役 石頭 悦

地域を巻き込み、皆で一つになって「さんさ裂き織」のブランド化を目指す



浴衣の再利用に着目

事業を始めたきっかけは、盛岡市内にある高等支援学校へ見学に行ったことです。障がいのある生徒さんが通うその学校では裂き織のクラスがあり、皆、一生懸命制作に取り組んでいました。彼らの技術は素晴らしく、市販されているものと比べて何の遜色もありません。むしろ、生徒さんの方がとても丁寧に織られていました。にもかかわらず、卒業後の進路に生かせない現実がありました。

裂き織は、岩手に昔から伝わる織物の一つ。着古してボロボロになった着物をひも状に裂いて織り直し、新たに布として再生させるものです。その存在は、現代の消費社会の中で薄れてきています。私には、この技術を継承したい、若い人たちにも裂き織を知ってもらいたい、そして、障がいのある人が織る裂き織の技術の素晴らしさを皆に知ってもらいたい、という思いがありました。

当時会社勤めをしていた私は、障がいのある人を支援する裂き織事業を行いたいと上司に相談し、盛岡市緊急雇用創出事業に企画を提出。こうして、障がいのある2人、

スタッフ1人、それに私の4人で「さんさ裂き織り工房」は始動しました。これが、創業の原点になります。この事業での裂き織は今までにないものにしたかった、素材を探しました。そんなとき、盛岡の夏の風物詩「盛岡さんさ踊り」のパレードを見ていて「これだ!」と思いました。

参加企業ごとに趣向を凝らしたカラフルな浴衣は、数年に一度、リニューアルされます。そこで私は、不要になったものを裂き織にできれば、盛岡のお土産品や観光資源にもなると思い、企業に浴衣の提供をお願いしました。障がい者支援事業ということもあり、10社ほどから協力いただくことができました。

退職、そして独立を決意

事業を立ち上げ半年が過ぎたころ、東日本大震災が起こり、裂き織事業部の継続が困難になりました。かと言って、今まで頑張ってくれたスタッフに事業の閉鎖を伝えることはできません。皆の思いを守り抜くため、私は退職を決意。独立することになりました。

急な決断で資本金も何もありませんでした。しかし、やってみるだけやってみようという思いで、平成23年9月、株式会社幸呼来 Japan を設立。翌年4月に就労継続支援A型事業所となり、障がいのあるスタッフ10人と専任スタッフ3人で新たなスタートを切りました。

スタッフが増えたことで生産能力は向上。一定のラインでの生産はもちろん、外注先として近隣の障がい者施設や裂き織経験者などに発注を行い、地域との連携も可能になりました。

今後は、盛岡のブランドとして皆さまに認知していただき、「盛岡のお土産は『さんさ裂き織』が定番」と言われるくらいに広めていきたいです。障がいがあってもなくても、みんなが一つになって事業を行っていく。そんな企業になりたいと思います。



株式会社幸呼来 Japan
(岩手県盛岡市)

平成23年創業
障害福祉サービス事業、裂き織製品製造・販売
<http://www.saccora-japan.com>